

令和5年度【フラット35】 住宅仕様実態調査報告の概要

令和6年6月



I 調査概要

調査項目	0(1)	検査機関名	3(2)	土台の薬剤処理	6(6)	天井又は屋根における断熱材の施工位置	9(1)	一次エネルギー消費量性能
	0(2)	建設地(都道府県)	3(3)	土台の樹種	6(7)	天井又は屋根の断熱材種類	9(2)	一次エネルギー消費量基準
	0(3)	竣工現場検査合格番号	3(4)	外壁の軸組の防腐・防蟻措置	6(7)	天井又は屋根の断熱材厚さ	9(3)	太陽光発電
	1(1)	床面積・敷地面積・階数	4(1)	主な耐力壁の種類	6(8)	壁の断熱材の施工方法(工法)	9(4)	オール電化住宅
	1(2)	構造	4(2)	2階床合板の厚さ	6(9)	壁の断熱材種類	9(5)	高効率給湯器等の設置
	1(3)	【フラット35】S(優良な技術基準 金利Bプラン)	4(3)	通し柱の寸法	6(9)	壁の断熱材厚さ	9(6)	床暖房の有無
	1(4)	【フラット35】S(特に優良な技術基準 金利Aプラン)	4(4)	通し柱の材	6(10)	床の断熱材種類	10	コロナ等による住環境の変遷
	1(5)	【フラット35】S(ZEH)	4(5)	通し柱の樹種	6(10)	床の断熱材厚さ	11	住宅工事仕様書の種類
	1(6)	住宅性能表示制度の利用	4(6)	管柱の寸法	7(1)	屋根の形状		
	1(7)	【フラット35】設計検査における電子申請の利用	4(7)	管柱の材	7(2)	屋根葺き材		
			4(8)	管柱の樹種	7(3)	小屋裏換気孔の設置方法		
	2(1)	基礎の構造	5(1)	外壁仕様	7(4)	軒の出の長さ		
	2(2)	地面から基礎の上端までの高さ	5(2)	通気構法	8(1)	床下点検口の有無		
	2(3)	基礎の上端の幅	6(1)	断熱地域区分	8(2)	床下空間の有効高さ		
	2(4)	床下防湿措置	6(2)	断熱基準	8(3)	小屋裏点検口の有無		
	2(5)	床下地面の防蟻措置	6(3)	窓サッシ枠	8(4)	耐震性能レベル		
	2(6)	床下換気措置	6(4)	窓ガラス	8(5)	配管が基礎を貫通する場合の措置		
	3(1)	土台の材	6(5)	窓ガラスのLow-Eガラス使用状況	8(6)	構造計算の方法		



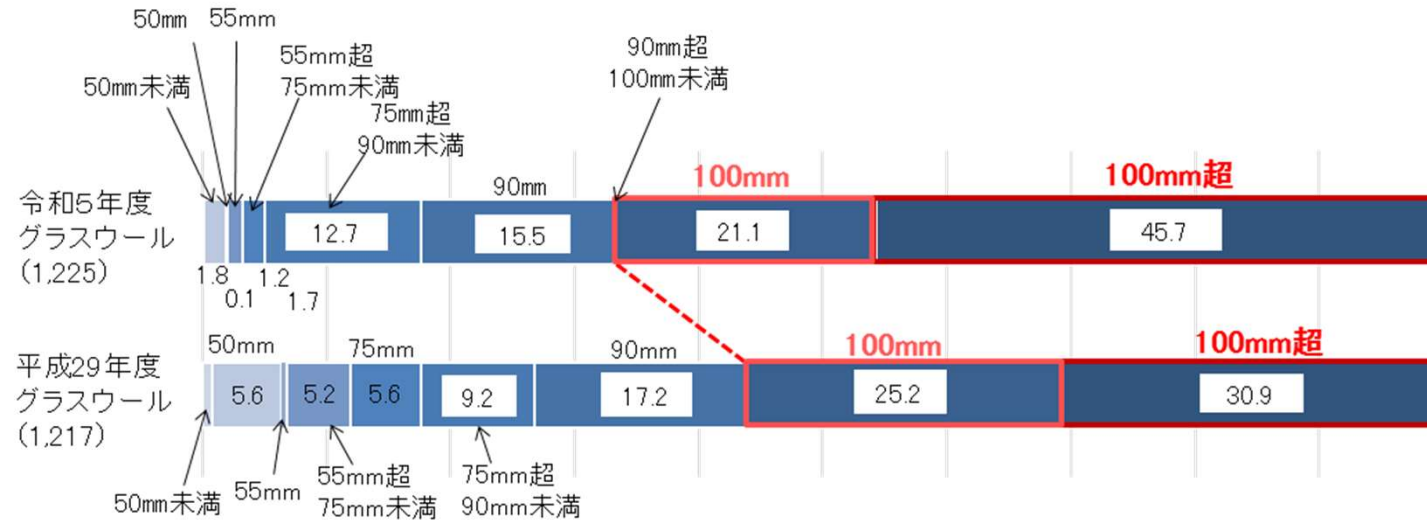
I 調査概要

調査票回収結果	地域	都道府県名	回収件数	地域	都道府県名	回収件数	地域	都道府県名	回収件数
	北海道	北海道	74	北陸	新潟県	31	中国	岡山県	48
	東北	青森県	20		富山県	19		広島県	47
		岩手県	27		石川県	20		山口県	21
		宮城県	52		福井県	17	四国	徳島県	18
		秋田県	34	東海	岐阜県	58		香川県	21
		山形県	22		静岡県	72		愛媛県	26
		福島県	33		愛知県	139		高知県	20
	首都圏	埼玉県	180	近畿	三重県	31	九州	福岡県	141
		千葉県	155		滋賀県	34		佐賀県	24
東京都		158	京都府		56	長崎県		21	
神奈川県		168	大阪府		159	熊本県		58	
関東 (除首都圏)	茨城県	90	兵庫県	兵庫県	129	大分県		20	
	栃木県	48		奈良県	35	宮崎県		14	
	群馬県	84		和歌山県	32	鹿児島県		44	
	山梨県	47	中国	鳥取県	20	沖縄県		17	
	長野県	31		島根県	18	合計		2,633	



Ⅱ 調査結果(ポイント)

(1) 外壁部断熱材厚さ(グラスウール)



※ 構成比(%)は調査件数より「その他」「不明」「無回答」の件数を除いた上で算出しています(以降のグラフ全て共通)

- 50mm未満
- 50mm
- 50mm超え55mm未満
- 55mm
- 55mm超75mm未満
- 75mm
- 75mm超90mm未満
- 90mm
- 90mm超え100mm未満
- 100mm
- 100mm超え

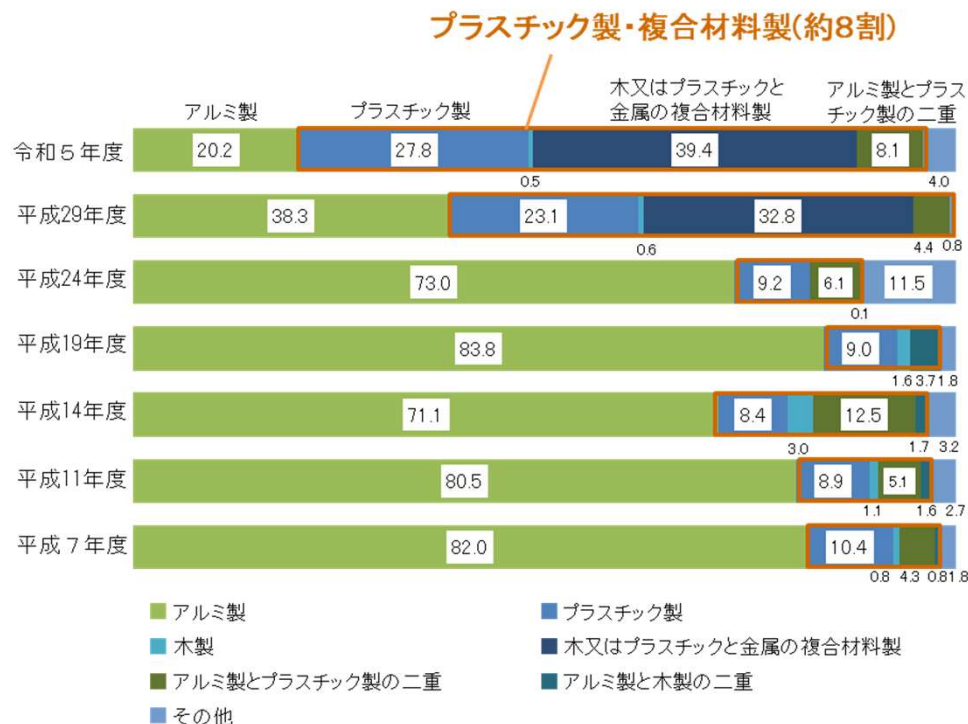
【調査結果】

繊維系断熱材において高い割合で採用されているグラスウールに着目したところ、前回調査と比較し、厚みが増加した。令和5年度は厚100mm以上が約2/3を占めた。

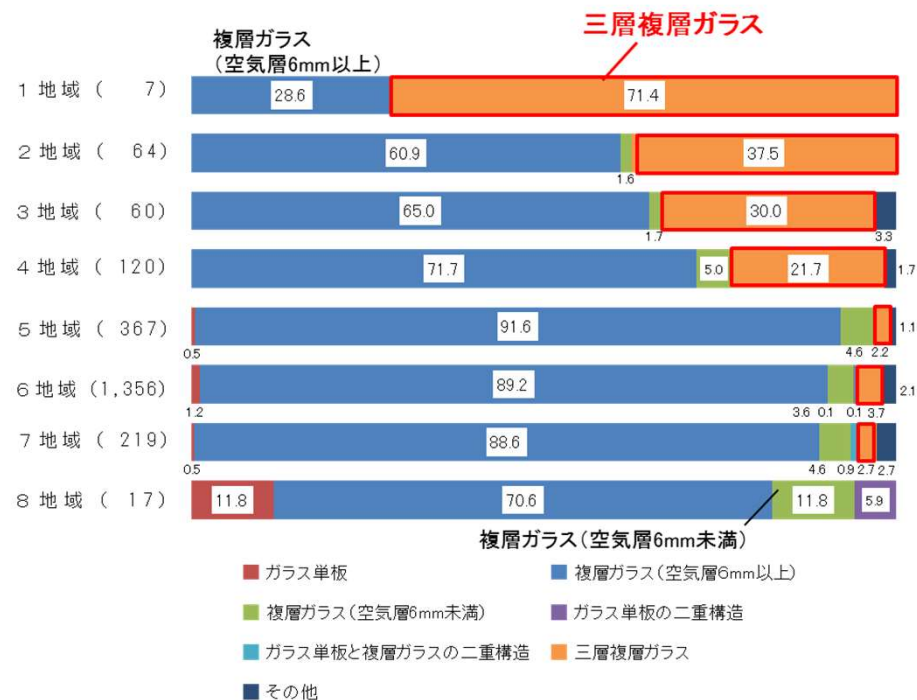


Ⅱ 調査結果(ポイント)

(2) 開口部(サッシ)



(3) 開口部(ガラス)



【調査結果】

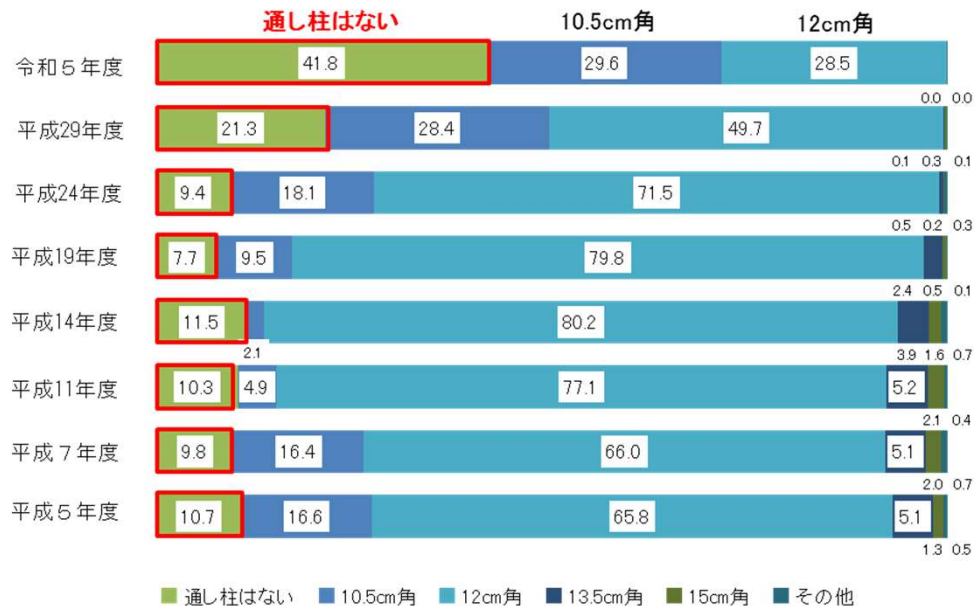
(2) サッシ 平成19年度から調査年度ごとに「アルミ製」の割合が減少し、「プラスチック製」、「木又はプラスチックと金属の複合材料製」の割合が増加している。

(3) ガラス 令和5年度調査では、ほぼ全て複層ガラスとなっている。全体では三層複層ガラスは6.2%、単板は1.0%であり、中でも単板は8地域を除き非常に低い割合となった。また、寒冷地で採用されるイメージが強かった三層複層ガラスが比較的温暖な地域においても一定数採用されている。

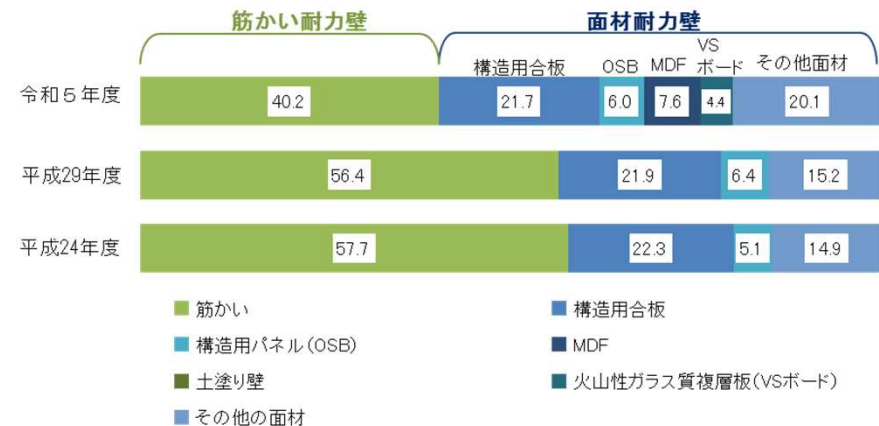


Ⅱ 調査結果(ポイント)

(4) 通し柱の寸法



(5) 主な耐力壁の種類



※令和5年度調査から選択肢に「ミディアム・デンシティ・ファイバーボード(MDF)」「火山性ガラス質複層板(VSボード)」が追加されている

【調査結果】

(4) 通し柱の寸法

令和5年度では、「通し柱はない」の割合が増え、「12cm角」の割合が減少した。今回調査で初めて「10.5cm角」が「12cm角」の割合を上回った。

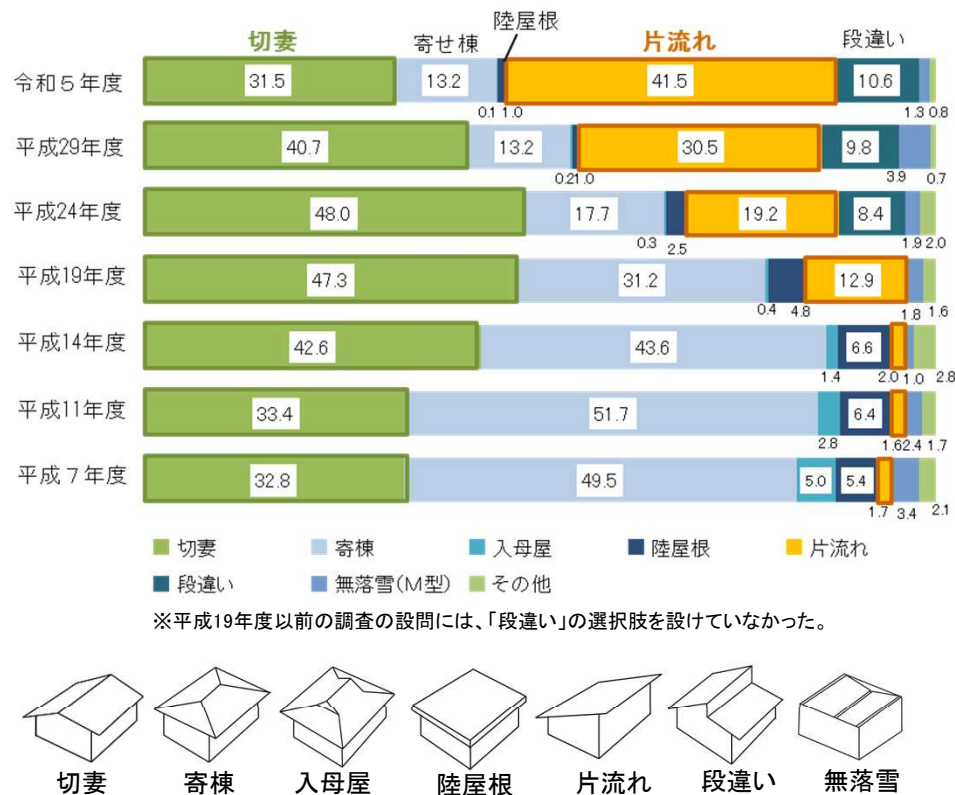
(5) 主な耐力壁の種類

「筋かい」が40.2%に対して「構造用合板」等の面材は59.8%であり、前回調査より面材の割合が上昇した。

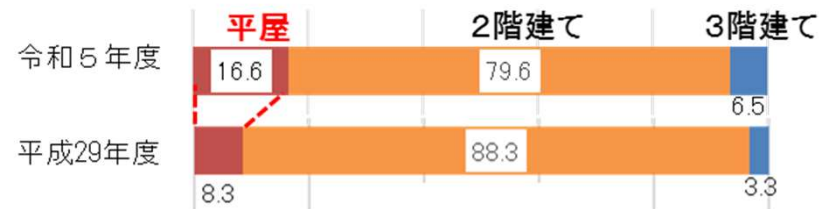


Ⅱ 調査結果(ポイント)

(6) 屋根の形状



(7) 地上階数



特に平屋の割合が増加した都道府県

	令和5年度(%)	平成29年度(%)	増加幅(ポイント)
鳥取県	36.8	3.3	33.5
栃木県	39.6	7.1	32.5
山口県	42.9	14.3	28.6
茨城県	36.0	8.5	27.5
群馬県	39.3	12.9	26.4
宮崎県	57.1	32.0	25.1

【調査結果】

「切妻」と「片流れ」の2パターンで全体の70%を超えている。「寄棟」の割合は調査年度ごとに減少しており、令和5年度調査では13.2%となっている。

【調査結果】

平屋の割合は全国で16.6%と、前回調査に比べ約2倍に増加した。都道府県別では前回調査より25ポイント以上平屋の割合が増えた地域もあり、中でも鳥取県では33.5ポイント増加した。



住まいのしあわせを、ともにつくる。
住宅金融支援機構



住宅金融支援機構

Japan Housing Finance Agency

(旧「住宅金融公庫」)

お問い合わせ先
マンション・まちづくり支援部
技術統括室 技術支援グループ
電話 03-5800-8163(直通)